

ともに歩む、その先の革新へ



2024年度決算説明会

イビデン株式会社(4062)
2025年5月9日

このプレゼンテーション資料には、2025年5月8日現在の将来に

関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。

世界経済・競合状況・為替変動等にかかわるリスクや不確定要因

により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

2024年度 実績

2024年度(通期) 売上高・営業利益・純利益 実績

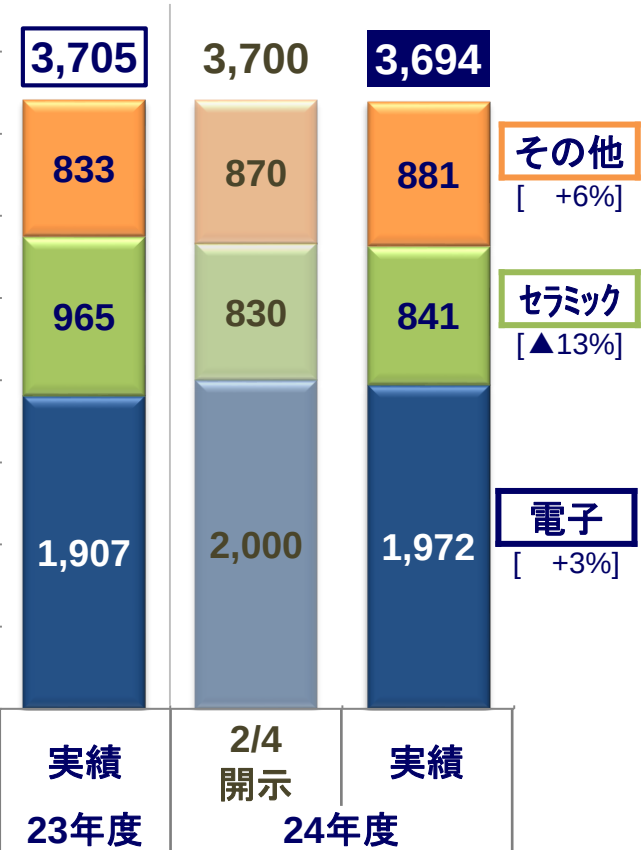


売上高

[]は
前年同期比

前年同期比
▲0.3%

(億円)



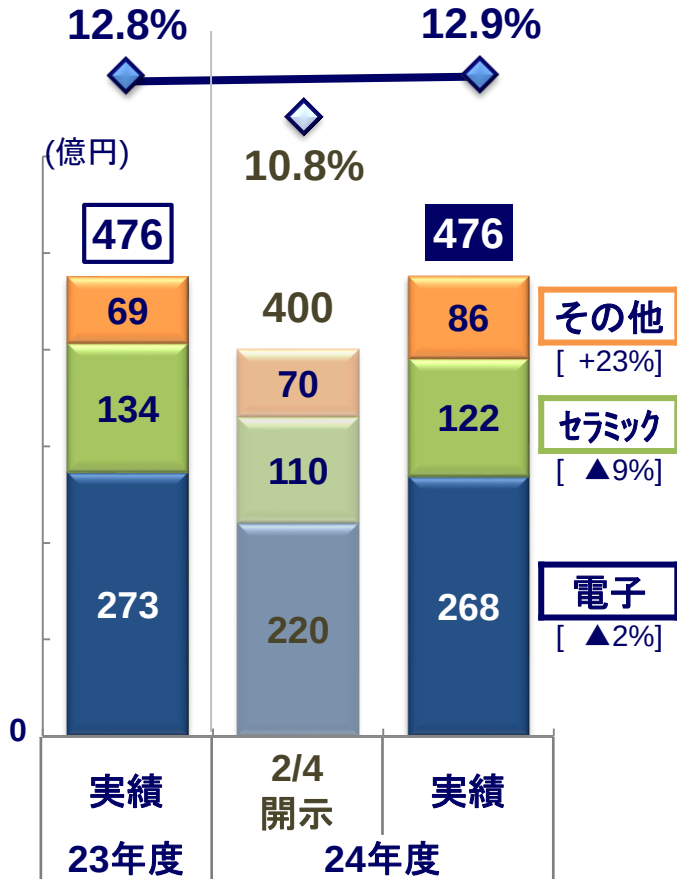
営業利益

[]は
前年同期比

営業利益率

前年同期比
+0.1%

(億円)

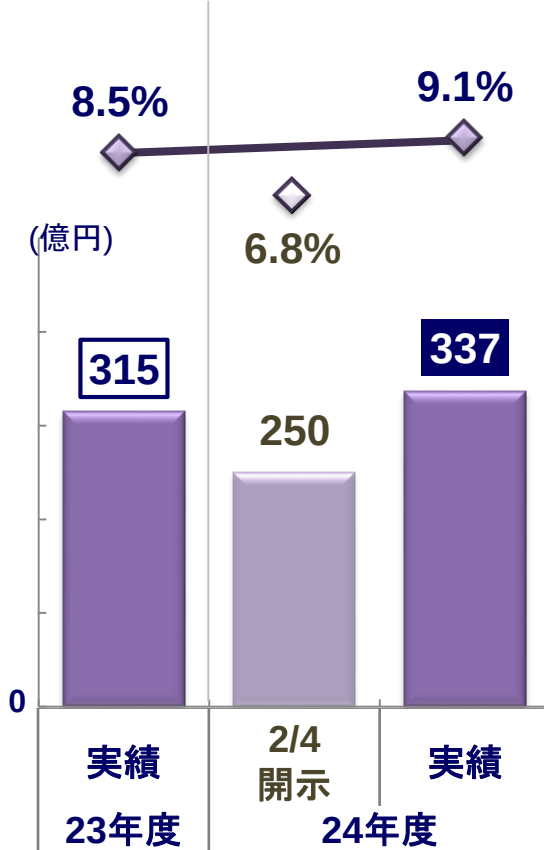


純利益

純利益率

前年同期比
+7.0%

(億円)



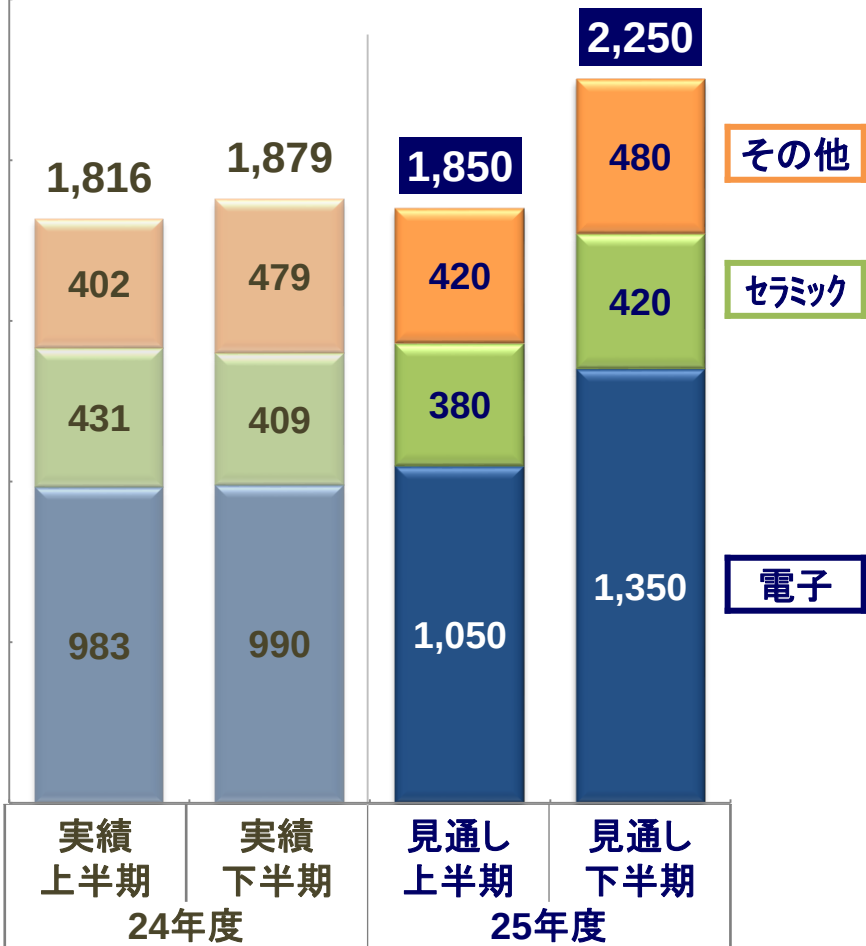
142	142	152	為替(ドル)
154	153	162	為替(ユーロ)

2025年度 見通し

2025年度(半期) 売上高・営業利益 見通し

売上高

(億円)

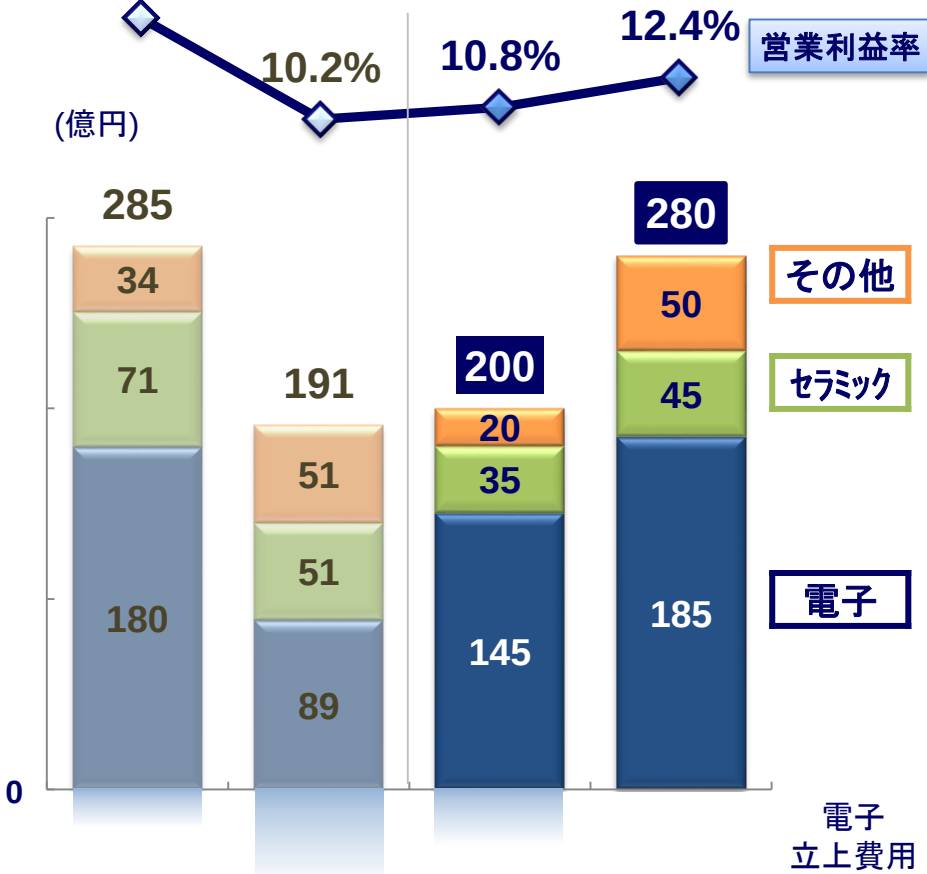


153	151	140	140	為替(ドル)
165	160	150	150	為替(ユーロ)

営業利益

15.7%

(億円)



実績 上半期	実績 下半期	見通し 上半期	見通し 下半期
24年度	24年度	25年度	25年度

2025年度(通期) 売上高・営業利益・純利益 見通し

売上高

[]は
前年同期比

前年同期比
+11.0%

営業利益

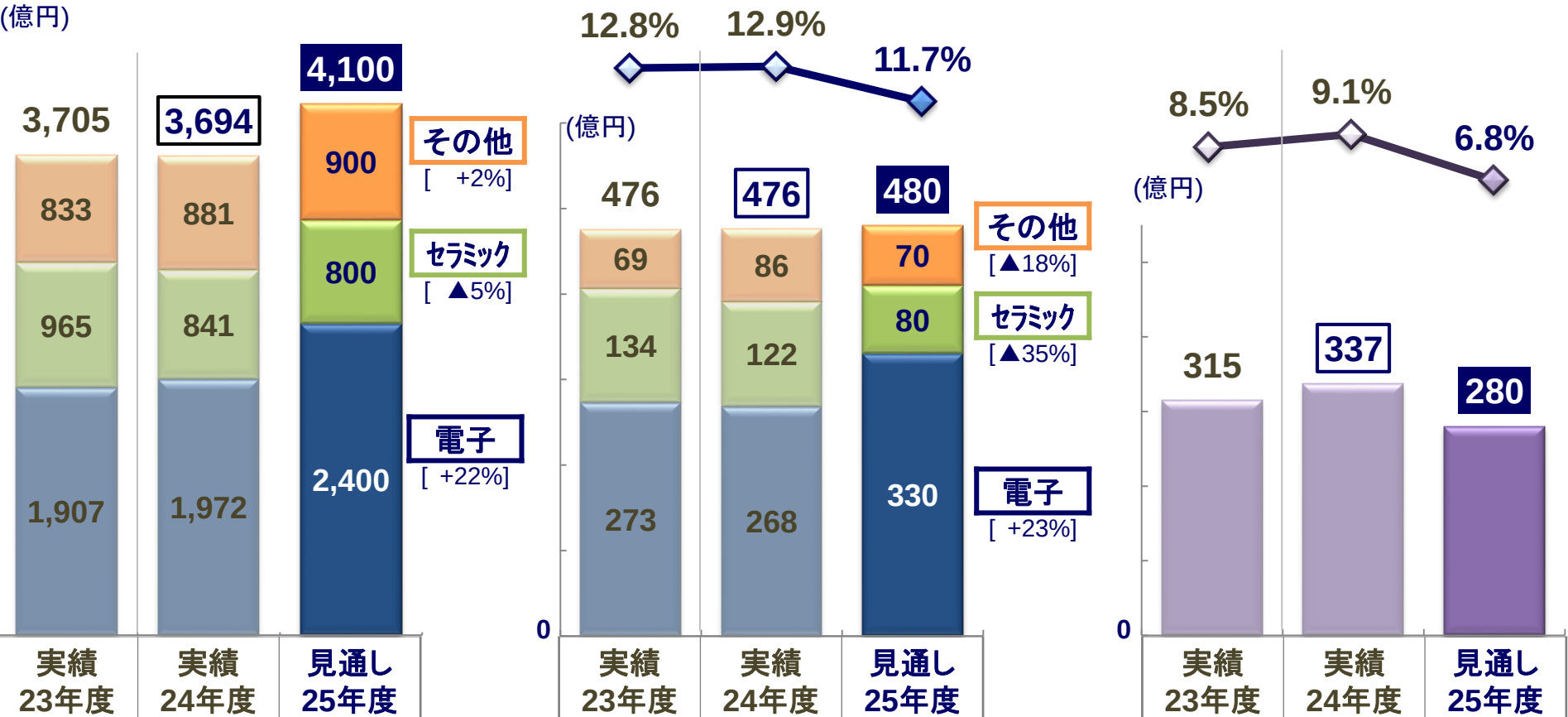
[]は
前年同期比

営業利益率
前年同期比
+0.8%

純利益

前年同期比
▲16.9%

純利益率



142	152	140	為替(ドル)
154	162	150	為替(ユーロ)

市場見通しと 当社事業展望

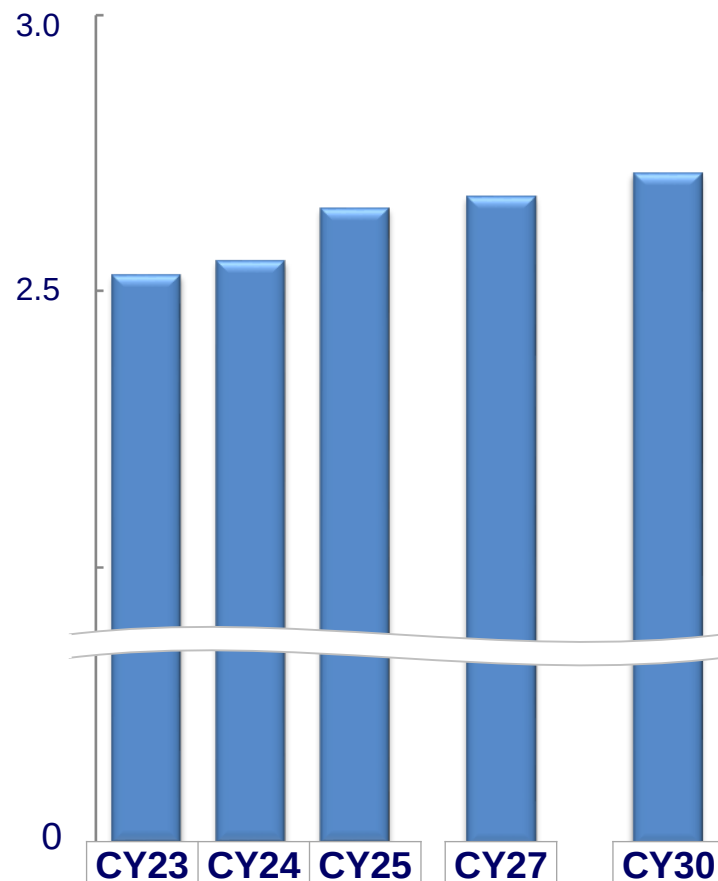
電子市場の動向と変化

- 全体:通商政策の変化による最終需要への影響及び一部サプライチェーンリスクは残る
- パソコン市場: 中期で緩やかな需要拡大を見込むが、製品変化(高機能化)の動向を注視
- サーバー市場: AI向けは力強い需要拡大が継続、汎用サーバーの需要動向は依然不透明

パソコン市場

(外部調査会社の情報を基に推定)

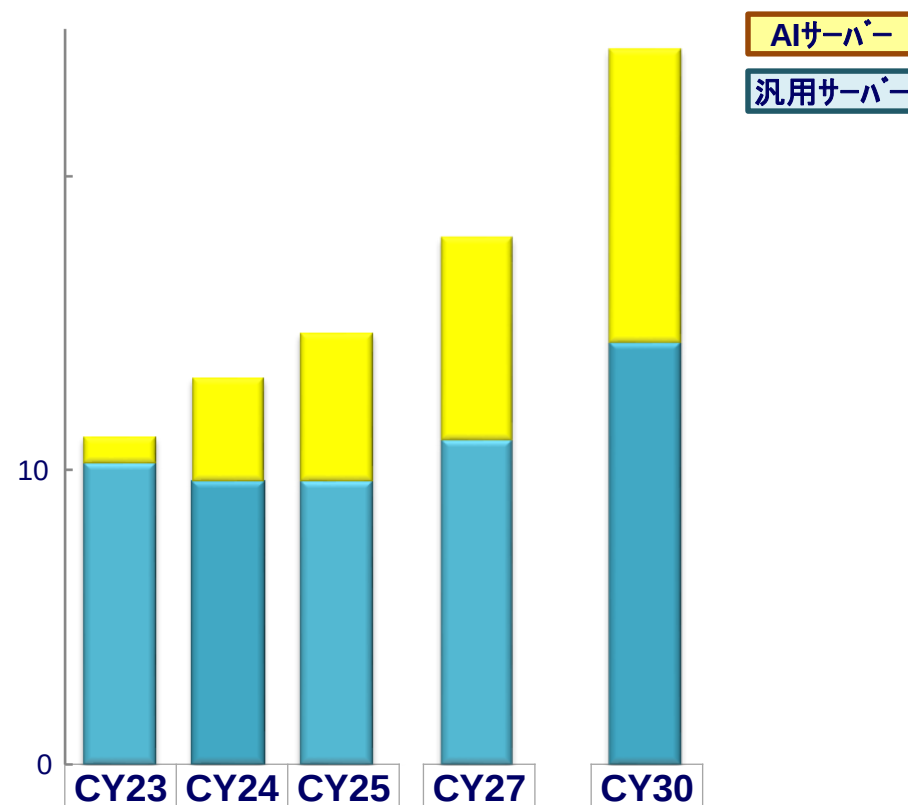
(億台)



サーバー(汎用+AI)市場

(外部調査会社の情報を基に推定)

(百万台)



ICパッケージ基板の需要見通しと投資計画

- 大野工場を計画通り立上げ、市場成長と高機能化に伴う需要増加に対応する
- 河間工場は早期稼働に向け、あらゆる選択肢を視野に入れて顧客との話し合いを継続

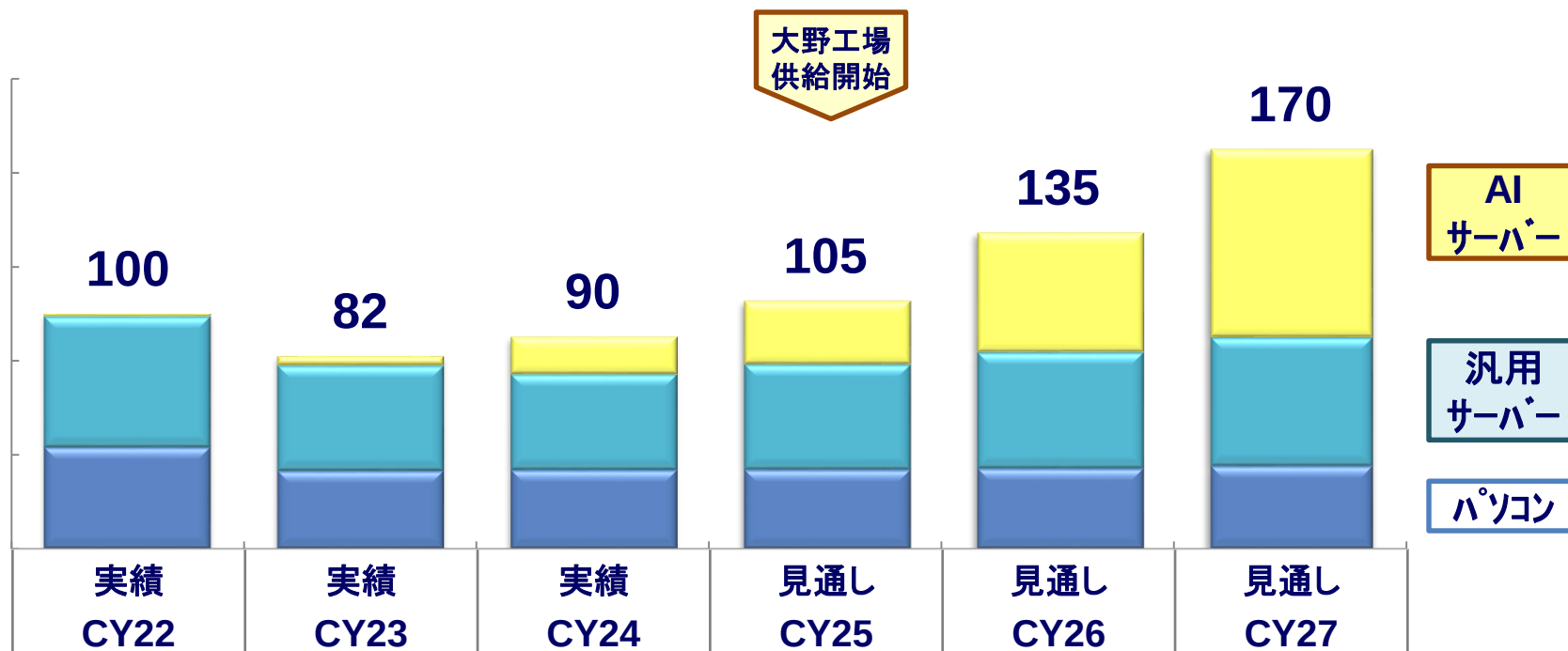
SAP*需要(面積)

※SAP : Semi Additive Process
※22年を「100」として指数化

(顧客情報等を基に推定)

■ AIサーバー向け基板の生産負荷(SAP換算)

	24年	26年	27年
生産負荷	1.0 (基準)	x 1.8倍	x 2.5倍



工場ネットワークと成長分野への注力

- 既存工場を含む生産能力をフレキシブルに活用し、高付加価値品の受注最大化を図る
- R&Dを含め、製品の進化に確実に対応し、安定した品質・生産量で業界トップを維持する

大野工場(Cell8)



稼働開始	2025/FQ2
生産品目	AIサーバー ネットワーク
サーバー比率	—

河間工場(Cell6)



稼働開始	2026年~交渉中
生産品目	次世代先端PKG
サーバー比率	—

中央工場(Cell4/5)



稼働開始	2007年/2020年
生産品目	AIサーバー/汎用 サーバー、パソコン
サーバー比率	55%→70%

大垣工場(Cell2/3)



稼働開始	1998年
生産品目	AIサーバー、パソコン
サーバー比率	75%→85%

※サーバー比率は、売上基準
[FY24 1H→FY24 2H]

フィリピン工場



稼働開始	2000年
生産品目	パソコン
サーバー比率	0%→0%

マレーシア工場

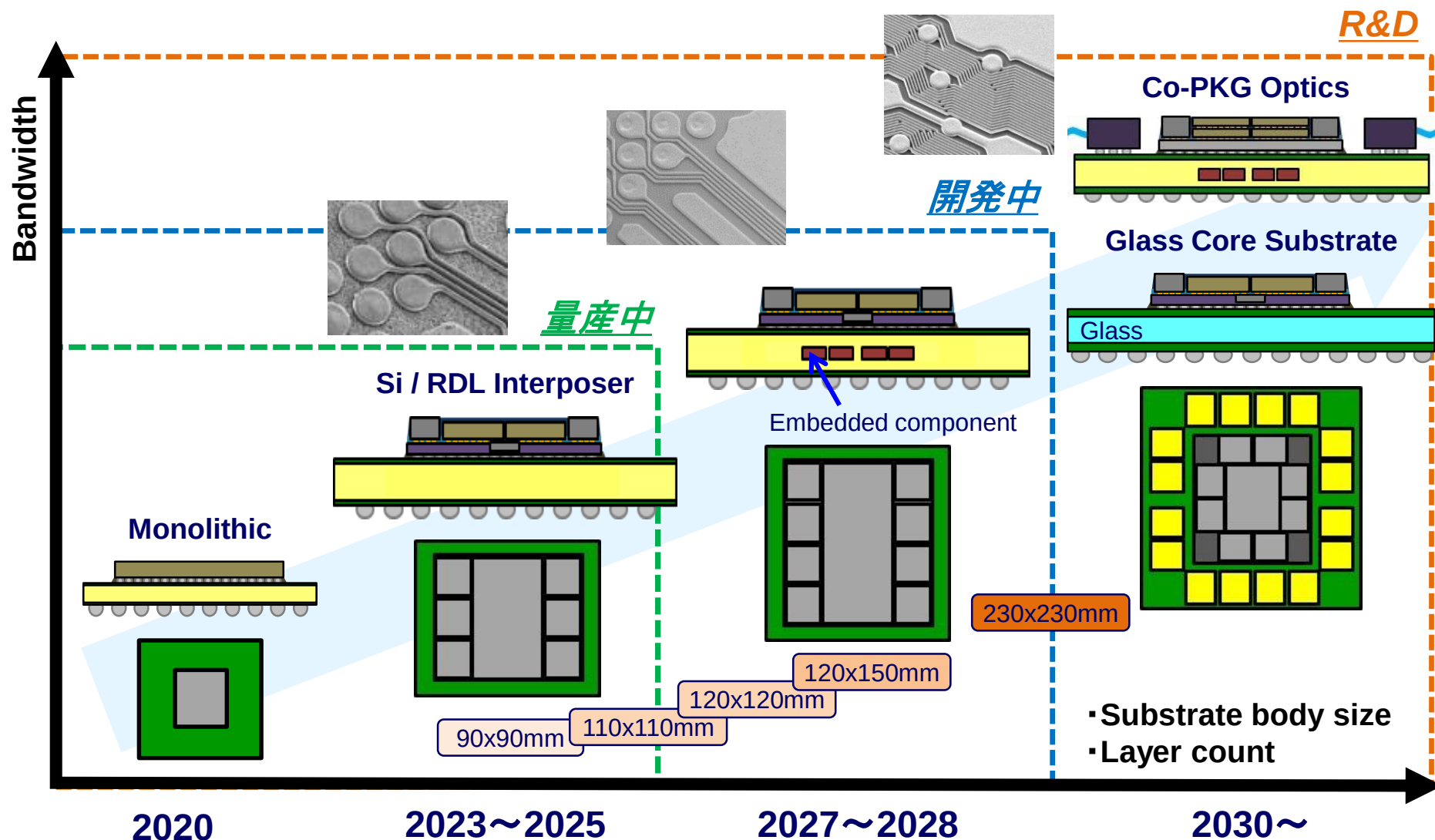


青柳工場



ICパッケージ基板の進化と開発

- ICパッケージ基板は、大型化・高多層化に加え、さらなる進化が見込まれる
- 全方位で必要となる要素技術を先行開発し、トップサプライヤーとしてのポジションを堅持する



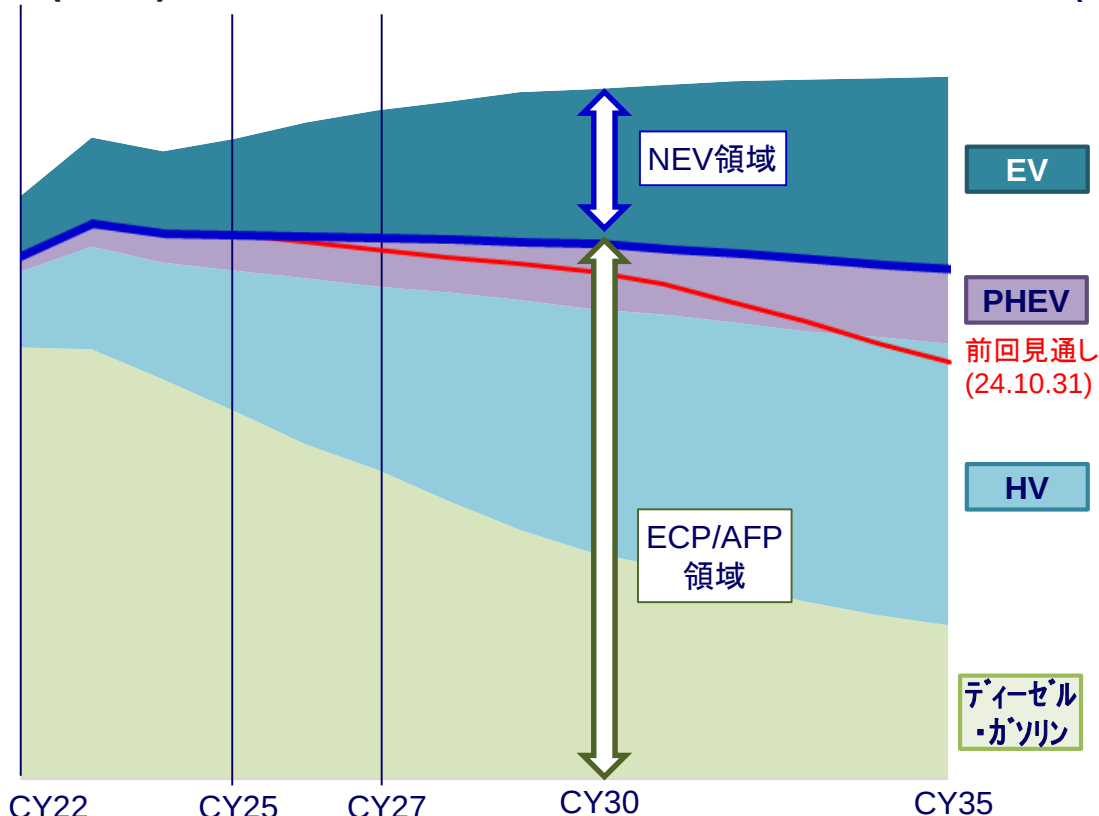
セラミック市場の動向と変化

- 内燃機関搭載車は当面は一定のシェアを維持する見通し、EV化再加速のタイミングを注視する
- パワー半導体需要は今年度は踊り場、来年度以降に緩やかな回復を見込む
- 関税政策変化による影響は、顧客との交渉・商流見直し・最適地生産で最小化を図る

パワートレイン市場

(外部調査会社の情報を基に推定)

(百万台)

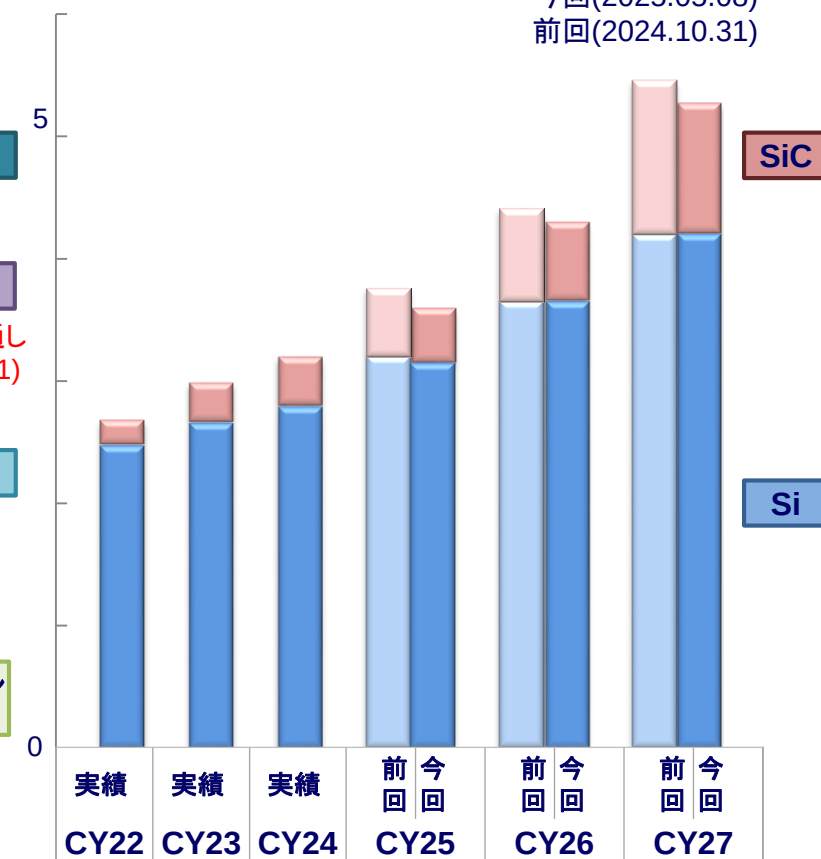


パワー半導体市場

(外部調査会社の情報を基に推定)

(兆円)

今回(2025.05.08)
前回(2024.10.31)

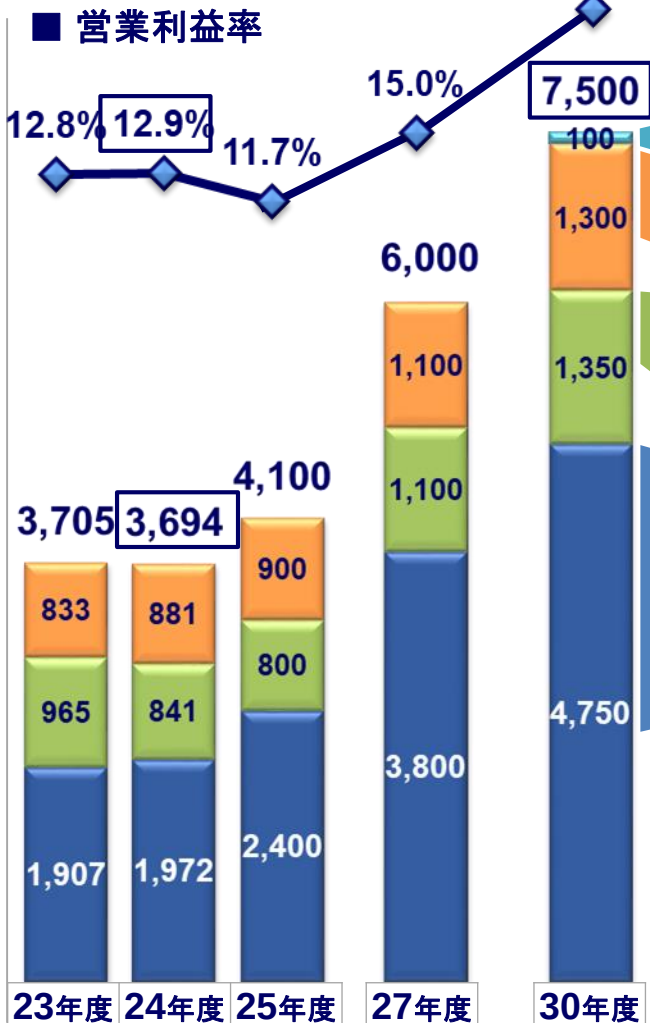


中期業績見通し



□ 資本コストに見合ったROE(10%以上)へ早期に復元し、中長期の更なる成長を目指す

売上高・営利率



[売上高 24→30年度] 売上倍増 内訳

セグメント	狙う市場	24年度対比 成長率・額	施策
新事業	新市場	+100億円≥	・GX対応 ・バイオテクノロジー
その他	日本国内	+45%	・半導体関連工事 ・システム開発(ヘルスケア)
セラミック	特殊炭素	+100%	・パワー半導体、原子力
	EV	+150億円≥	・顧客拡大、海外生産
電子	汎用サーバ ASIC	+150%	・新規顧客拡大 ・最適工場戦略
	AIサーバ	+250%	・高難度製品の開発~量産 →新工場活用

活動の柱

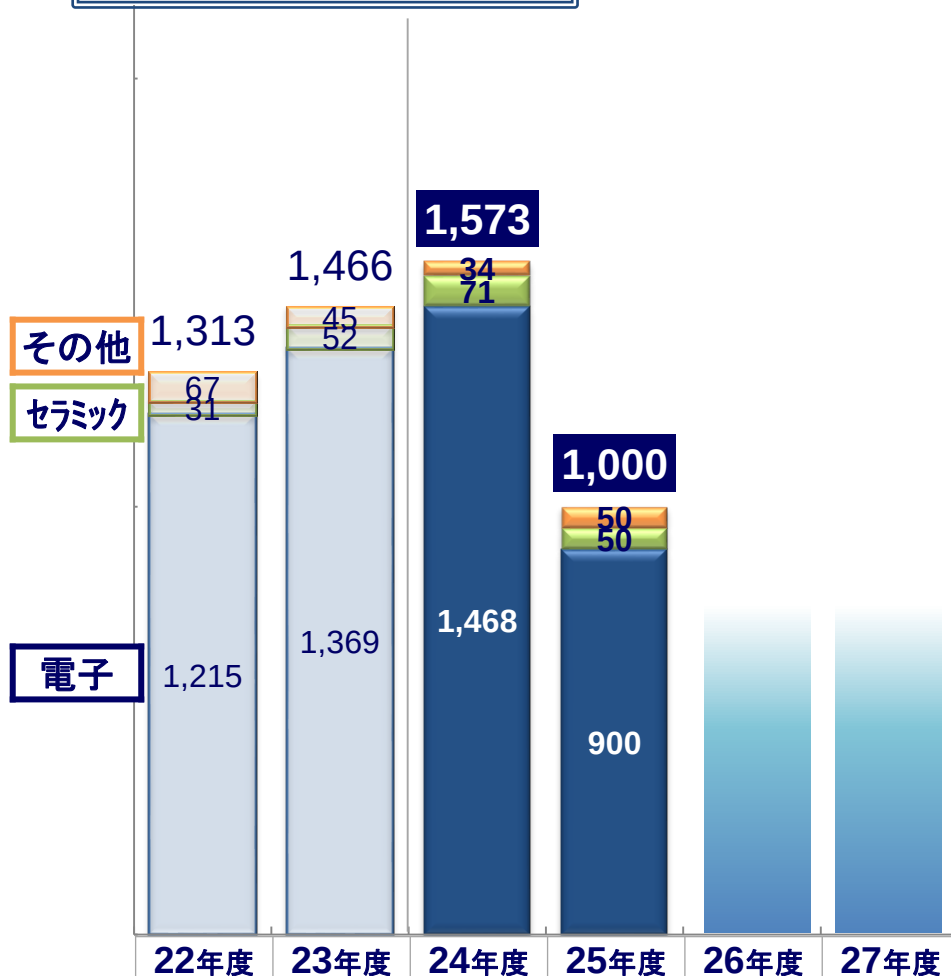
1. 事業の競争力強化
2. 新規製品の事業化
3. モノづくりの革新
4. 企業文化の革新
5. ESG経営の推進

「稼ぐ力」
「伸ばす力」
「継続する力」
「変える力」
「永続する力」

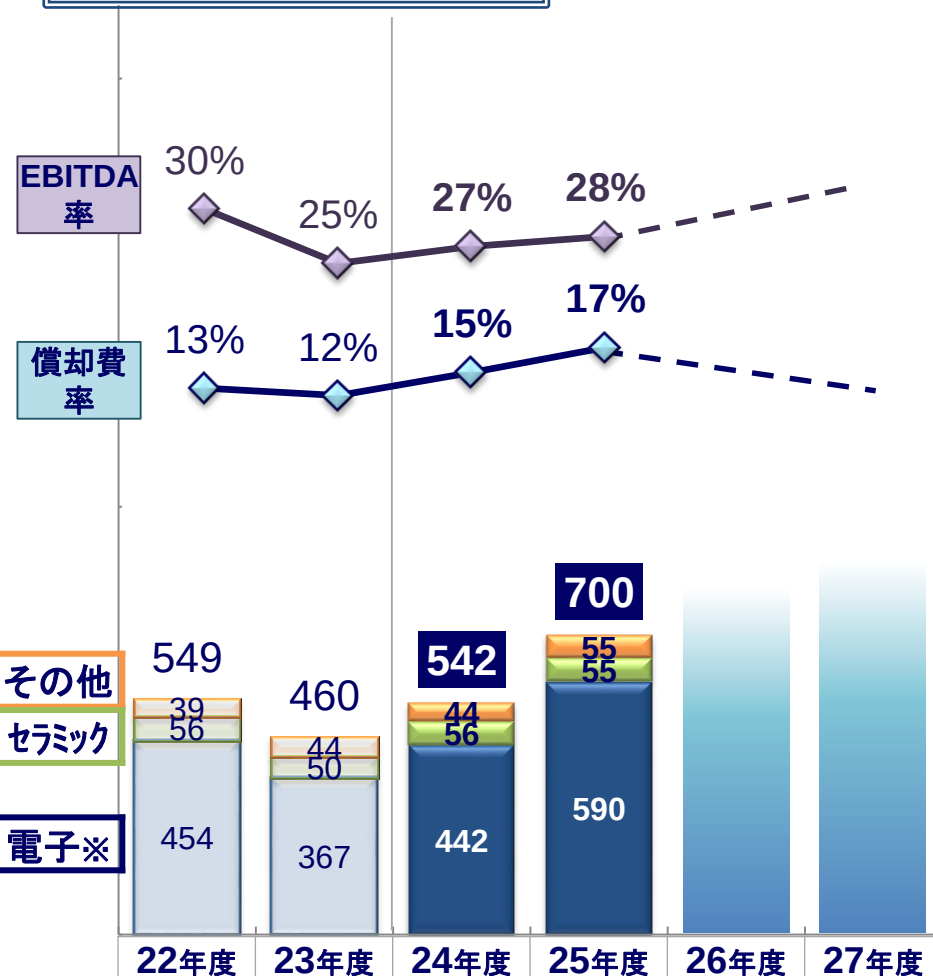
設備投資(検収)額・減価償却費の計画

- 環境変化のリスクはあるが、伸びる分野・市場に向けて、成長投資を力強く推進
- 市場動向を見つつ、都度投資・発注判断を行うことで、投資リスクを最小化

設備投資額 (億円)



減価償却費 (億円)



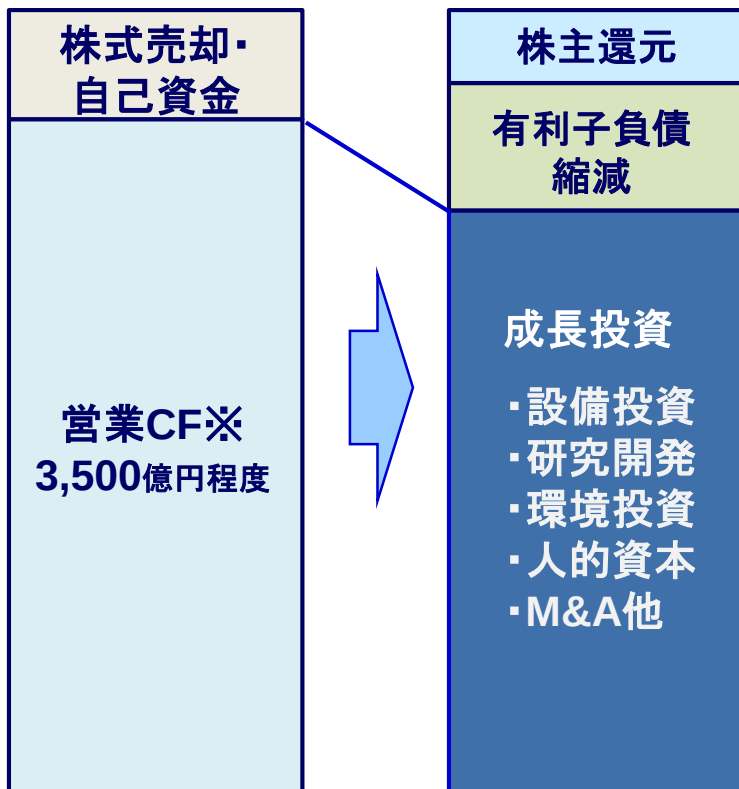
※休止固定資産の減価償却費を含む

資本配分と株主還元

- 政策保有株式は、2027年度末までに、2023年度末時価ベース対比で50%以上縮減する
- 成長投資は営業CF以内を基本とし、財務体質改善・強化を図る(自己資本比率50%の早期復元)
- 株主還元は、安定配当を基本に、収益水準・財務指標・株価を総合的に判断して実施する

キャピタルアロケーション

25~27年度累計

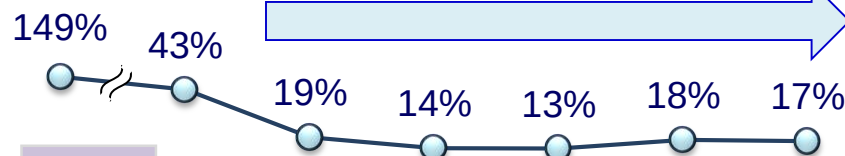


※研究開発費控除前

1株当たり配当金

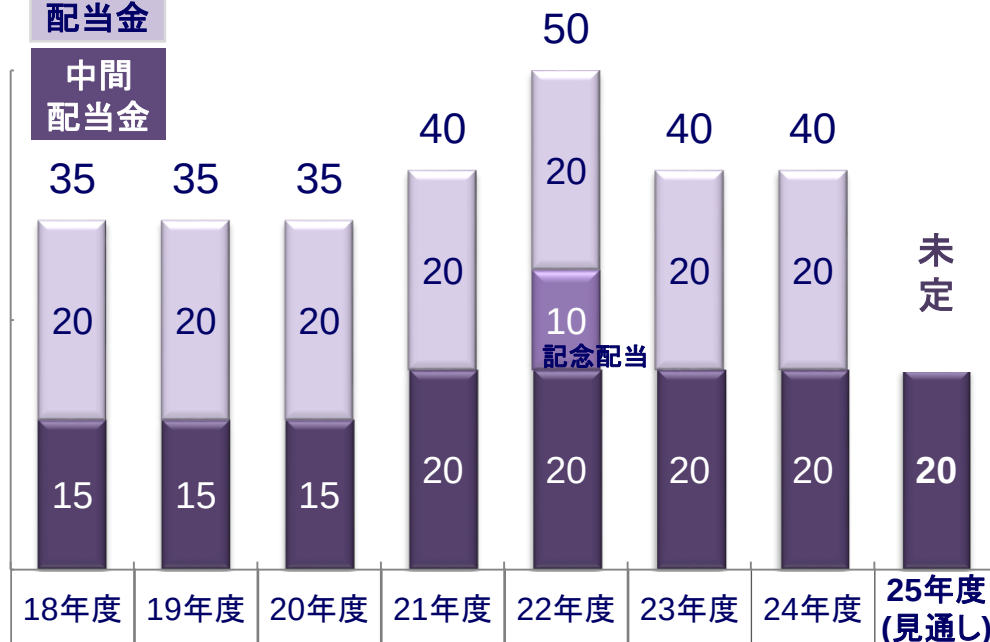
配当性向

ICパッケージ基板 大型投資を優先



期末
配当金

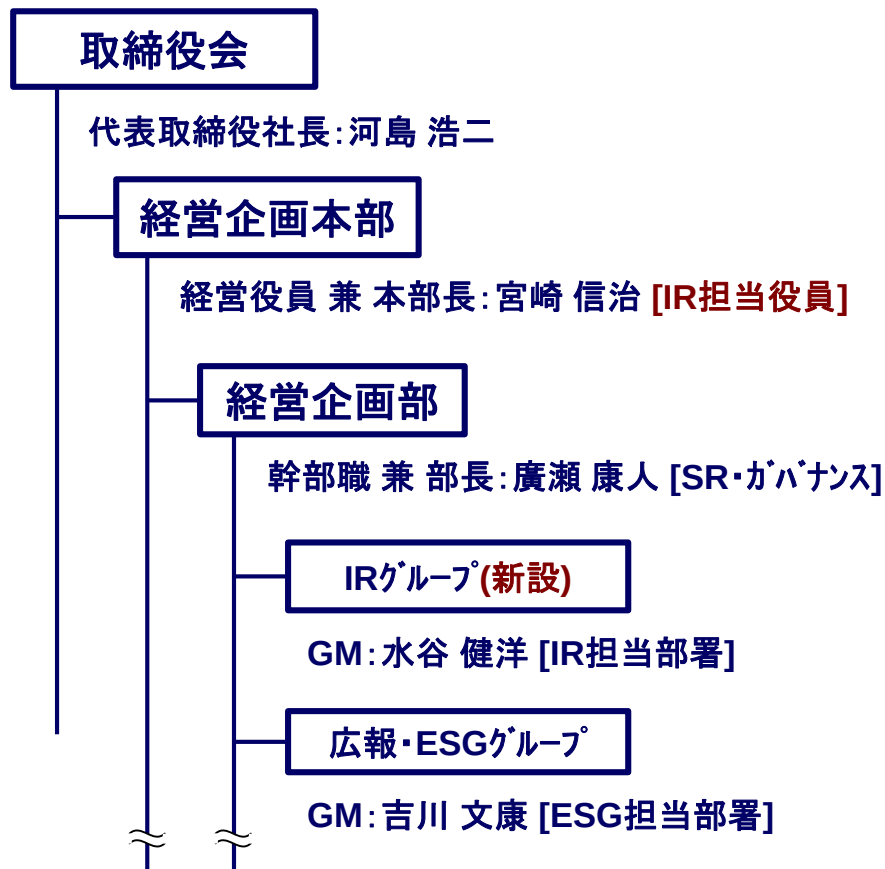
中間
配当金



IR強化に向けた取り組み

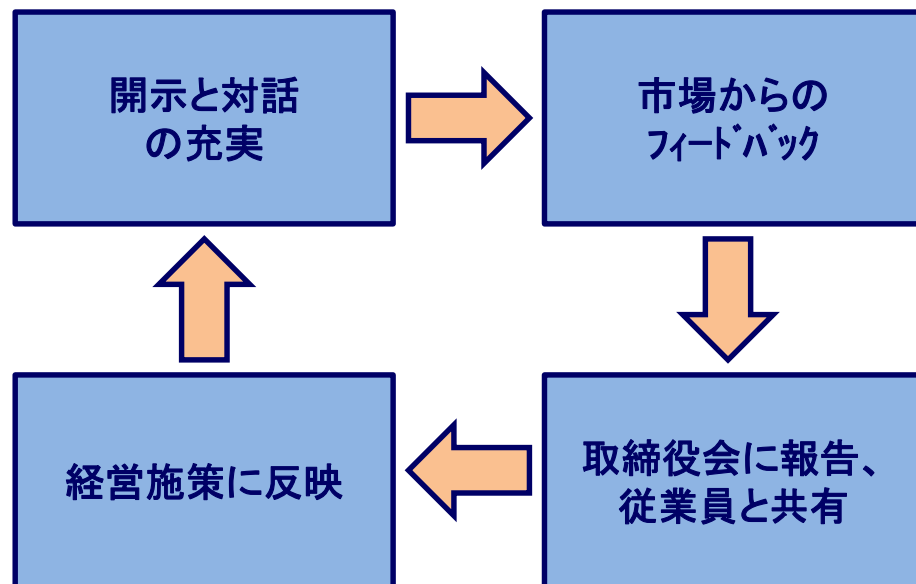
- IR担当役員の配置と専任部署を新設し、トップ面談を含めたIR活動を強化する
- 市場の声を確実に取締役会・従業員に届け、経営に反映することで企業価値向上を図る

IR担当部門の強化



企業価値の向上

市場との対話、経営への報告のサイクルを迅速に回すことで、企業価値の向上を図る



ともに歩む、その先の革新へ

